足立区青少年委員会だより

あだち

区の花：チューリップ

第 62 号

平成 29 年 2 月 22 日

編集発行
足立区青少年委員会
広　報　部

足立区教育委員会
青 少 年 課

http://adachi-seishounen.jp

力を合わせて

青少年委員会副会長
田中　実

昨年、第四中学校の夜間学級を見学する機会がありました。若い頃に満足に学校に通えなかった年配の方や日本で生活していくために日本語を学ぶ外国から移住した方々が、先生と正面から向き合い、新しい情報を知り、友人とともに学ぶ喜びに溢れた姿に、教育の本質を見たように思いました。

足立区では、教育大綱を策定し子どもたちを社会全体で支え育てていく視点に立ち、多くの施策を進めています。統計上はその効果が現れてきています。しかし教育現場では不登校や、なくならないいじめ、子どもの貧困など問題を抱え、教師は保護者の対応への時間が増えるなど、その心労は計り知れないものがあります。学校全体が疲弊し、目標を失っているような気がします。

今こそ、教育の本質を見直し、希望に満ち溢れた輝かしい未来を作りあげていく子どもたちのために、社会全体が力を合わせて応援していきたいと思います。

平野屋こども食堂　開店

広報部　森岡　裕子

平成二十八年四月、足立活き活き会ボランティアの方々による「平野屋こども食堂」がオープンしました。

場所は、足立区六月二丁目にある「割烹平野屋」。同店社長の當摩好一郎さんのご協力により、お店の定休日毎月第四水曜日に開店。時間は午後四時から七時までで、事前に予約が必要です。

対象は小学三年生から六年生ですが、幼児、一・二年生については保護者と同伴することで利用ができ、夕食を三百円で提供しています。

炊きたてのご飯にみそ汁、トンカツ、他にもボランティアの皆さんの手作りのおかずが並びます。

子どもたちは、開店と同時に「こんにちは」と、元気よくお店に入ってきます。そして慣れたようすで、名簿に名前、学校名、学年、アレルギーの有無を記入して三百円を払います。食事ができるまでの間、ゲームやおしゃべりをしながら楽しく過ごし、食事もおいしく楽しくいただきます。そして食事が終わると、家に帰る子、習いごとに出かける子とそれぞれ帰って行きます。

開店ですよ～

赤ちゃんをおんぶした親子連れの方も入って来て、お店の中が活気づきます。

「足立活き活き会」会長の鈴木圭子さんにお話を伺いました

「平野屋こども食堂に来る子どもたちは、仕事の都合等で親の帰りが遅かったり、ひとり親家庭により、一人で食事をする孤食や、子どもたちだけでの食事、コンビニ弁当だけでの食事だったりします。中には、みそ汁を飲んだことがない子どももいます。満足に食事ができない子どもたちに、栄養バランスの良い食事を低価格で提供したい。月に一度だけでも、できたての食事をみんなで楽しく食べてほしい」と、優しい笑顔でお話をされました。

平野屋こども食堂を始めてから、地域の方等さまざまな所から、子どもたちのために、食材の協力や応援をしてくださる方が増えたそうです。また、足立区役所貧困対策課が窓口となって、お米や鶏肉、りんごなどの援助があります。

「お袋の味」がたくさん並びました

現在、ボランティアの方々は、午後三時から集まり始め、六人から十人で準備をされています。

会長の鈴木圭子さんは、「ボランティアをすることは楽しい。ネットワークがどんどん広がり、いろいろな人とのつながりもできてくる」と、嬉しそうにお話をしてくださいました。

「足立活き活き会」の名前は、活き活きと活動をやっていきたいとの思いからつけたそうです。

ボランティアの方々は、素敵なあたたかい笑顔で溢れていました。

足立区立第四中学校夜間学級

ブロック部会

十一月十七日、第四中学校夜間学級を見学させていただきました。

東京都には公立の夜間中学校が八校あり、第四中学校もその一つです。

夜間学級は、昼間通学できない生徒に通学させ、中学校卒業資格を取らせたいとの要望から設置されました。入学に際しては面接の上、教育委員会から許可がでます。入学時期は四月、九月と随時行われます。

以前は戦争で学校に行けなかった人が多く在籍していましたが、年を経て今は既卒者でも不登校で学べなかった生徒も入学できるようになりました。

日本語を学んで仕事をしたい外国籍の人たちも多くいます。クラスは少人数制で、通常の教科書に加え教員作成の教材を使用し細やかな授業を行っています。また、八校連合体育大会、文化祭、遠足、自然教室、修学旅行もあります。

それぞれの思いを胸に教室へ通われています

年配の方たちの教室に入らせていただき、真剣に授業を受けている様子に、学ぶ姿勢の強さ、意欲をとても感じました。

高橋校長先生にお話を伺いながら、給食を試食しました

全体研修を終えて

研修部長　高橋　將郎

九月二十六日、足立区役所庁舎ホールにおきまして「国の教育政策の動向と足立区の学力定着への取組」について、足立区教育委員会学力定着対策室長、須原愛記さんを講師に迎え全体研修会を開催しました。

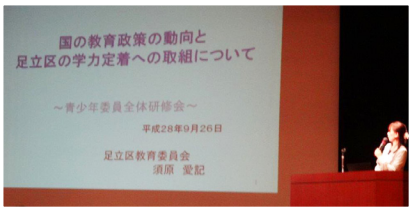
子どもや学校の抱える課題は、いじめ、不登校の他、暴力行為の低年齢化、児童虐待の増加、日本語が十分に習得できていない外国人や帰国子女の増加、特別な支援を必要とする児童生徒の増加等、様々な問題を改めて認識することができました。

国や東京都ましてや国際的にも、様々な角度から子どもたちの教育や学校家庭に至る迄細部に分析して対策や向上に向けて研究している事が理解できました。

学力については、家庭の経済事情による進路への影響は大きく、家計所得が高いほど四年制大学の進学率は高くなっているとのことです。

足立の子どもたちの学力ですが、小学校では国や都との差は縮んできていますが、中学校では英語に課題があるとのことでした。

このような課題を解決すべく青少年委員も更にお役に立てる活動ができればと感じました。短い時間でしたが、内容の濃い研修会になりました。



全体研修会

年中行事・記念日を大切にしよう

九月一日、足立区本庁舎アトリウムに事業部による「お月見」の飾り付けが行われました。旧暦の八月十五日（十五夜）と九月十三日（十三夜）に供物を上げ、月を拝み賞する年中行事の一つです。月の見える縁側などに団子や芒の穂、季節の野菜などを供えていました。十五夜は里芋を供えることが多いので芋名月、十三夜は枝豆を供えるところから豆名月とも呼ばれていました。

事業部による飾りつけです

活性化事業報告

鹿浜すこやかネットワーク

九月二十四日、地域の子どもの健全育成に関わる大人が地域支援のネットワークを結ぶことにより、子どもたちにとって安心で楽しく過ごせるやさしい「まち」をつくっていこうという趣旨のもと足立区青少年委員会第十二ブロックの事業、「鹿浜すこやかネットワーク」が開催されました。

二十二年目になる今回は、**『夢～未来に向かって必要な力～』**がテーマになりました。

会場には、家族や友達、地域の皆さんがたくさん来場され、和やかな雰囲気のなか九名の子どもたちのメッセージが発表されました。

♪第五回千住音楽祭♬

十一月二十六日、千寿青葉中学校体育館にて、足立区青少年委員会第一ブロックの事業「千住音楽祭」が開催されました。千住地域の小学校、中学校の他に、私立足立学園中学校・高等学校、順徳女子高等学校、帝京科学大吹奏楽部のみなさん、東京藝大の口笛達人青柳呂武（ｒｏｍ）氏の演奏も披露されました。

回を重ねるたびに参加してくださる学校、サークルも増え、今年も会場設営に観客のみなさんからのアンケートや意見を生かし、舞台や観客席の工夫がされました。

演奏を楽しむと共に、学校間の交歓、子どもと地域の人々の交流が達成されていると感じました。

成人の日の集い

東京武道館：平成 29 年 1 月 9 日（月・祝）
参　加　者：3,710 人
区内新成人：6,319 人（男性 3,298 人 女性 3,021 人）

実行委員氏名（五十音順）

山崎素菜　山岸清剛　山内萌夏　福井公一郎　菱沼沙希　品川結加華　小沼裕里　菅野日菜磨　川崎祥乃　唐松和朗　市川光一憲　石鍋光則

実行委員あいさつ

新成人　菱沼　沙希

一月九日に成人式を無事終え、私たちは子どもから責任感のある大人として成長の第一歩を踏み出しました。

私たち実行委員は約半年間、今年の成人式を新成人の皆さんの思い出として色濃く残るようなものにしたいという思いで式の準備を進めて参りました。

当日は、三千七百十人もの新成人が集い、今年のテーマである『アダチのハタチ～大人になった君との出会い～』にもあるよう、ハタチになった友人との再会を喜び、各々が成長を感じる節目の日となりました。

無事に式を終えられたのは、開催にあたり尽力してくださった近藤やよい区長をはじめ、区役所の方々、地域の皆様の支えのおかげです。心より感謝申し上げます。

私たち新成人は、足立区の皆さんへの感謝の気持ちを胸に、足立区そして日本のより一層の発展と素晴らしい未来づくりに尽力し、貢献できる大人になれるよう努力していきます。

「新成人の皆さんへ」

青少年委員会副会長　川下　勝利

前日からの雨が少し残るなか、東京武道館を会場に「成人の日の集い」が開催されました。

青少年委員会では、会場案内のお手伝いだけでなく、広報部会が独自に参加者の皆さんにアンケート調査をさせていただいています。本年も四百五十名を超える回答数のご協力をいただきました。質問一、二については、昨年とほぼ同じ回答率となり、式典に参加する大きな動機として友人との再会を楽しみにされていることが当日の皆さんの様子からも感じ取ることができました。

また、「これからも足立区に住みたいと思いますか？」の項目では、「はい」の回答率が増え、足立区への愛着が高まってきたものと思われます。

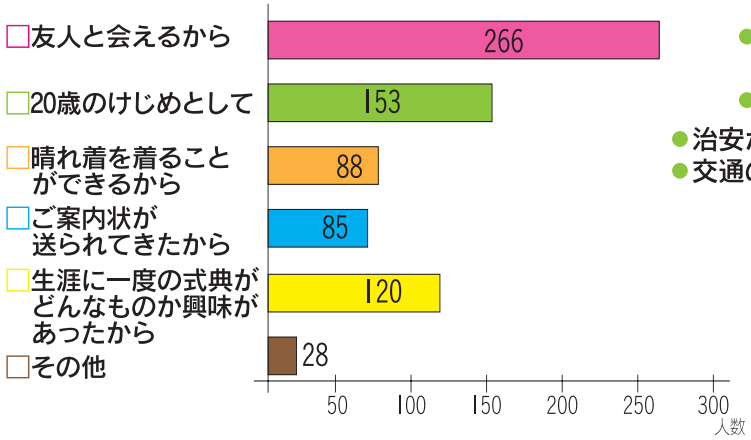
選挙権の年齢が引き下げられ、数回の投票機会がありましたが、「二十歳の抱負は？」の回答にあるように「自分の行動に責任を持つ」ことを大切にして、この国の未来も担っていただけるよう期待いたします。

成人の日の集いアンケートより〈集計結果・複数回答あり〉

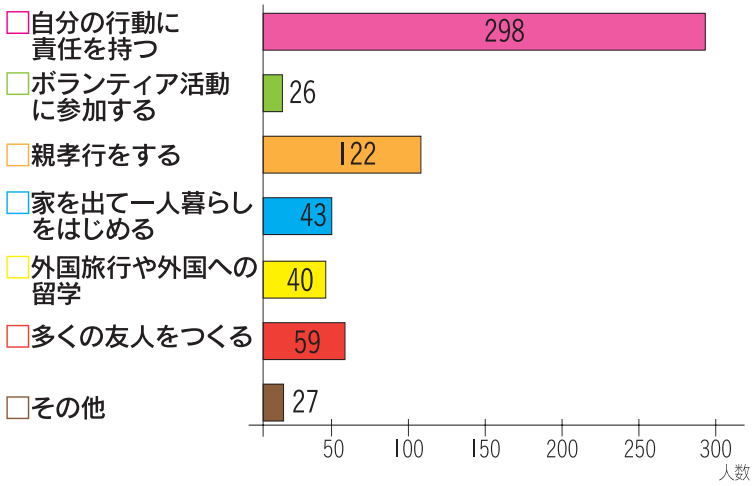
アンケート回答数	
男性	243
女性	222
合計	465

職　　業	人　数
勤労者（アルバイト含む）	103
学　生	325
その他	15

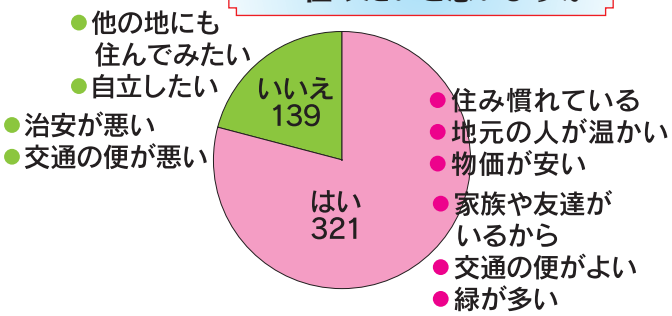
1　成人式に参加された理由は



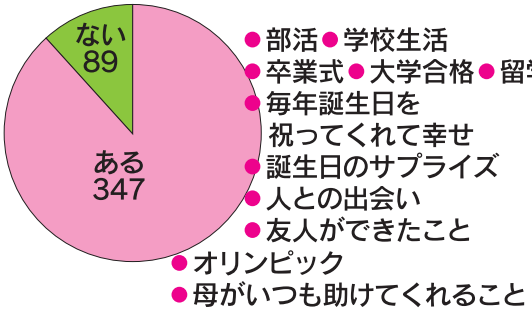
2　20歳の抱負は



3　これからも足立区内に住みたいと思いますか



4　今までの人生で喜び感動など心に残ることはありましたか



5　あなたの10年後は何をしていますか

- ●仕事をしている（具体的な職種を多数回答してくれた）
- ●結婚している
- ●自分の人生を楽しむ
- ●夢の結果を出している
- ●家族を作って幸せに暮らしている
- ●笑顔で過ごしていたい
- ●海外での生活

アンケートを実施して

今年の成人の日は昨日からの雨が昼頃まで小雨ながら降り続きました。そんな中アンケートには、たくさんの方が快く協力してくれました。

足立区に住みたい⇒**いいえ**の中には、他の地にも住んでみたい、家族から離れて成長したい、一度出て行ってもまた足立区に戻ってきたい等の回答もありました。

10年後は何をしているかの問いには、「仕事をしている」との回答が多くあり、具体的な職種をあげてくれました。

70名の委員が成人の日の集いに従事しました

今年は受付も担当しました

『三つの気』六月中学校三十周年記念式典

第十ブロック　吉田　雅子

六月中学校が創立三十周年を迎え、十一月五日に記念式典・祝賀会が開かれました。

全校生徒が参加した式典で上岡校長は「初代堀川校長が掲げた『元気・根気・勇気』の〝三気の成就〟の理念のもと、時代の流れの中で様々な教育活動を展開し三十周年を迎えることが出来ました。平成二十四年四月に発足したコミュニティスクールは、学校・保護者・地域の皆さまとの関わりを深くし、生徒に活動の機会を与えていただき、地域と保護者に支えられた学校となりました」と式辞を述べられました。

また、全校生徒の三部合唱の校歌は上岡校長の恩師渋谷澤兆氏の編曲によるもので、素晴らしいハーモニーを会場に響かせました。

式典終了後の祝賀会は生徒、教職員六百人の全校給食の場となっている区内では珍しい『コミュニティホール』で行われました。

アトラクションでは、吹奏楽部が渋谷氏作曲の三十周年記念曲〝希望〟から手拍子の鳴りやまない演奏が続きました。また生徒有志による校歌三部合唱、三年女子ダンスと大いに会場を盛り上げてくれました。

お祝いのスピーチではそれぞれ六月中学校への想いを語られました。共通して生徒の為にできること、学校の為にできること、学校に携わる方々との協力、連携があり今の六月中学校があるというお話に「六月中学校愛」が感じられました。

六月中学校の校舎は船をモチーフとして建てられたとのこと。校舎の中心に位置する高い吹き抜け天井の会場での祝賀会は参加者皆の想いをのせた新たなる船出を祝う会となりました。

本木小学校百四十周年

第三ブロック　木島　俊江

十二月三日、本木小学校創立百四十周年記念式典・祝賀会が行われました。

本木小学校は、明治十（一八七七）年に創立し、平成二十四年四月一日、旧本木東小学校と統合し、校歌と校章が変わり、旧本木東小学校の校舎で子どもたちは二年間学びました。

平成二十六年四月一日、もとの本木小学校のあった地に新校舎が完成し、新たな歴史が始まりました。

また「かしこい子　思いやりのある子　たくましい子」の教育目標のもと「東京都教育委員会人権尊重教育推進校」として人権教育の取組に力を入れています。

足立区長の挨拶では「伝統を築いてくれた先輩方に対し、これからの歴史を築いていくという責任をもってください。そして子どもの未来が足立の未来です」と話されました。

式典には五・六年生の生徒が白いシャツ、黒のズボン、スカートと揃いの装いで出席し「お祝いの言葉」をしっかり元気に発表し、来賓の話を聞く姿とともに称賛されました。

式典後の祝賀会では、地元在住で花柳流舞踊家である花柳珠絃先生による「お祝いの踊り」が披露され花を添えました。

先生は百四十周年の記念事業の一つとして、子ども達に着付け・踊りの教室を開いてくれました。

長い歴史に積み上げられた伝統を誇りに、新生「本木小学校」は次の百五十周年へと向かい動き出しました。

酉の市パトロール

第九ブロック　芦川　珠美

一の酉、二の酉の両日、第九ブロックでは、沢山の人でにぎわう花畑大鷲神社酉の市のパトロールを実施しました。

毎年行っているもので、参加者が二ルートに分かれ、神社周辺及び隣接の公園等を防犯灯を手に周回し、青少年の危険行為、防犯抑止に役立つよう実施しています。学区域内の何校かは独自でパトロールをしていますが、両日とも青少年委員のほか、沢山の教職員、ＰＴＡ関係者も参加してくださり、関心の深さを感じました。

これからも大人たちの温かい目で見守ることが、地域の安心・安全につながると思いますので、今後も続けていかなければと感じています。

９ブロックの青少年委員

あだち区民まつりに参加して

青少年委員会副会長　松崎　顕治

春先より進めてきた「Ａフェスタ」参加に向けての準備は、下川会長を中心に新体制の下で、今年も順調に進んでおりました。

ミニＳＬでは、所有者の梅沢氏との打ち合わせで、今年も二台による運行をお願いすることができました。ウォーターコインも昨年同様完璧な準備が整い、一円玉アートでは、例年通り生涯学習センターのご協力によって準備万端でした。

一日目、ミニＳＬは、線路は設置したものの試運転中に雨が強くなるなど、天気とのタイミングが合わず、運行できませんでした。

ウォーターコイン、一円玉アートは少なめの来場者ではありましたが、実施することができました。

期待のかかった二日目でしたが、午前中はやはり雨にたたられました。

ミニＳＬでは、梅沢氏を中心に何時でも運行できる状態にありましたが、結局午前中は運行できず、午後天候が良くなってきたので、子どもたちを乗せて走らせることができました。

ウォーターコインでも、長蛇の列とはいきませんでしたが、参加者の皆様には楽しんでいただけました。

一円玉アートも来場者の皆様にご協力をいただきまして、一〇四五七円の募金を集めることができました。

この募金は、十一月二十二日に社会福祉協議会へ寄付させていただきました。

毎年この催しは天候不順で、何かと思うに任せない運営を強いられてしまいますが、これも風物詩になっている気さえします。

雨天を見上げ残念な思いを残した今年の「Ａフェスタ」でしたが、来年に向けて気持ちも新たにした一日でした。

安全確認中!!

1円玉アートは3種の絵柄を用意しました

ウォーターコイン準備完了！

平成 28 年度　区立学校 周年記念式典実施校（五十音順）

伊興小学校	140 周年
桜花小学校	20 周年
上沼田中学校	40 周年
栗原北小学校	40 周年
第十三中学校	70 周年
西保木間小学校	20 周年
花畑中学校	50 周年
平野小学校	40 周年
渕江第一小学校	50 周年
宮城小学校	70 周年
本木小学校	140 周年
六月中学校	30 周年

研修部の活動

研修部長　高橋　將郎

平成28年度の活動は、新任研修に始まり、全体研修と日帰り研修等様々な企画にて研修会を開催致しました。

5月23日新任研修は、定野司教育長を講師に迎え「子どもたちに明るい未来を　成長を実感できる教育を！」と題した講演と、その後先輩委員とのグループ討議を行いました。青少年委員としての心構え、学校や地域は基より子どもたちとの関わり方を学んだ研修会となりました。

9月26日の全体研修は、須原愛記学力定着対策室長を講師に迎え「国の教育政策の動向と足立区における学力定着への取り組みについて」講演していただきました。足立区も国や東京都と連動しながら独自の対策に取り組んでいる事がわかりました。

2月25日の日帰り研修は足立区の施設「鋸南自然の家」の見学と鋸南町の学校や子どもたちと関わっている方々の講演と対話を予定しております。

研修部の活動を通じて、青少年委員としての行動力の向上に取り組んでまいります。

28年度全体研修会

事業部の活動

事業部長　館山　晴美

『年中行事・記念日を大切にしましょう』の取り組みとして、端午の節句、七夕、お月見、お雛様と年4回本庁舎アトリウムにて飾り付け活動・ポスターの配付を行ってまいりました。

6月12日には青少年健全育成団体親睦ソフトボール大会を行いました。

10月のあだち区民まつりでは出店に取り組みました。残念ながら両日雨天で、ミニSLは最終日午後のみの運行となってしまい、ウォーターコイン・1円玉アートの来客数も昨年の3分の1という結果でした。来年は天気に恵まれたくさんの皆さまに楽しんでいただきたいと願っております。

たくさんの1円玉が投入されアート完成！

今後も事業部員一同、更に心合わせて一生懸命取り組んでまいります。

【寄付】足立区社会福祉協議会へ
1円玉アートより　10,457円全額

●編集後記●

今号で紹介させていただきました、平野屋こども食堂の取材に私も同行しました。そこでボランティア精神の大切さと子どもへのケアの必要性を痛感し、これまでの青少年委員としての活動を振り返る良い機会になりました。

いつも「子どもたちファースト」の気持ちで、委員一人一人が様々な場所で活躍しているのが青少年委員です。広報部は、そうした委員の活動を広く知っていただけるよう、広報紙作りやホームページの更新を行っております。

特に年二回発行の定期広報紙は、広報部員が何度も部会を開き完成に至っています。多くの方々に原稿執筆も依頼しご協力いただいております。この場をお借りして深く感謝申し上げます。これからも足立区の子どもたちの笑顔のための様々な取り組みを応援していきます。

広報部長　佐藤健二